

今月の山柳



私だって
この世に一つ
だけの花

三月
早春の畑の片隅に咲く、青紫色の可愛い小さな花。名前はオオイヌノフグリ。別名の「星の瞳」がよく似合う。
生命力の強い雑草で、除草には閉口するが、小さいながら、きちっと自己主張している可憐な花である。

八女川柳会 安達 昇

今月の色

菜の花の色

葉の花の緑みの黄色。視覚デザイン研究所「和の色」のものがたりより



春がくると連想する色がある
弘法さん参りの善男善女のエリヤ杖についた黄色い布
菜の花に舞う黄色いちよう
黄昏れる春の入り日
幼い日の春の夢はイエローカラー一色だ

「菜の花島に人日薄れ
見わたす山の端霞ふかし
春風そよふく空を見れば
夕月かかりてにおい淡し」
小学校で習った唱歌『おぼろ月夜』の世界である

れんげ咲く田の畦を 若草萌える
矢部川の土手を
つくしやつばなを摘んで帰ったのもこの頃だった
なんと平和で幸せな日々だったろう

かけがえのないふるさとを次の世代へ

街かど gallery



八女市吉田 福原 恒子



押し花の魅力に惹かれ、押し花を習いはじめてから、十数年になります。
押し花の技術も最初の頃とは比べものにならない位に段々と難しくなり、ついていくのが大変ですが楽しんでみながら日々頑張っています。

先日より押し花の第一人者筒井雅代先生の勉強会に参加し、牡丹の作品を制作しました。お気に入りの一枚です。

今後も教えて頂いたことを生かし、伊藤先生はじめ皆さんと一緒に楽しく押し花を続けていきたいと思っています。
生徒募集中 伊藤千代子 090(4473)8542

シネマ古今物語②「バットマンVSスーパーマン ジャスティスの誕生」の巻

3月25日から「バットマンVSスーパーマン ジャスティスの誕生」が公開されます。そこで、今回はバットマンについて復習してみましよう。
バットマンの映像化はかなりの数なされていて、映画になったものだけでも、バットマン役者は六人います。最初はTVシリーズの拡大版で、アダム・ウエストがバットマンに扮しました。これはコミカルな作品で、パンチやキックの音が漫画のように吹き出しで出るというものでした。次に映画化されたときは、マイケル・キートンがバットマンに扮し、ストーリーもぐっとシリアスになりました。監督は「シザーハンズ」のティム・バートンで、単なるヒーロー物ではなく、バットマンも悪玉も社会不適合者（フリークス）として描かれているのが特徴です。その後、三代目をヴァル・キルマー、四代目をジョージ・クルーニーが演じて、監督はジョエル・シュマッチャーが務め、アーノルド・シュワルツェネッガーが悪役を演じるなど、カラフルで派手なアクション映画になりました。そして、七年後、クリストファー・ノーラン監督が再映画化し、クリスチャン・ベイルが五代目のバットマンに扮する三部作が誕生しました。この三作も監督のカラーが出て、主人公ブルース・ウェインがバットマンになるまでの日々や、バットマンとしての苦悩など、リアリズムに徹したつくりになっています。



さて、今回のバットマンですが、新たにベン・アフレックが扮しています。ベン・アフレックと言えば、「アルゴ」でアカデミー賞を取り、自分で監督もするし、脚本も書ける才人です。その彼が、なぜ今更バットマンを演じるのか、事情はわかりませんが、今回のバットマンは今までで一番マッチョなバットマンになっているのは確かです。なぜなら、今回の敵は超人スーパーマンだからです。何の特殊能力も持たない生身の人間であるバットマンは、今回、スーパーマンと対決するために、分厚い金属製の鎧を纏って登場します。対決の結末はどうなるのか、本当に対決するのか、興味深いですね。(R・I)

敬具の記

詩人 椎窓 猛

本紙「天窓舎だより」に平成16年より12年間、217回の連載。サル年にならぬ「老骨87歳」ボケ認知症前に、『敬具』を申しあげることになり、意を決しました。▼この幾春秋、読者の方より幾度となく愛読の言葉を頂戴、感謝の念も再三、今に胸に思いは熱くともっています。▼恩師の作家小島直記先生が遺された言葉『文字で心を洗い、心の鑿で顔を彫る』バイブレーション、言葉、文字による響きあう「和」の力、感動の度あいを再認識すること、いくたびもありました。▼『黄檗』新

春特別号に直木賞作家安部龍太郎氏も文学、表現の持つ力の大きさ、文字に残すことの意義、「未来への精神的な遺産」と述べています。これは営業の有力誌、新聞、さうい

敬具

Facebookでコミュニティを楽しもう ⑩

Facebook (以下FB)には「友達」という概念があります。簡単に言うとAさんとBさんが友達であればAさんが書いた内容は当然Bさんが見ることが出来ます。直接Bさんには関係なくてもAさんが「こんな美味しそうなお弁当を食べたのか」「こんな場所に遊びに行ったのか」ということがわかって、Facebookを利用して楽しい瞬間の一つだと思えます。ただ、FBの中では「公開範囲」というものがあり、その書き込みを「公開」の設定にしていると「友達以外の方にもお弁当やお出かけの内容を見られる可能性がある」ことを意識していない方も少なくないようです。友達しか見えないと思って気軽に書き込んだことが思わぬトラブルに発展することもあるかもしれません。最近ではベッキーさんの事件のようなものでしょうか。あれは完全にプライベートのやり取りがどこからか漏れたものですが、FBで友達と楽しくやり取りしようと思って書いた内容が思わぬところに影響を及ぼす可能性があることを知っていたほうがいいでしょう。発言の公開範囲にはいくつか種類があり、けっこう複雑な設定も可能ですが、ほとんどが「公開」か「友達限定」のどちらかを使っている場合が多いです。「公開」の場合は自分が知らない方とのつながりが期待できますがその分リスクも高いです。これまで公開範囲を意識していなかった方は、この機会に自分の発言がどんな設定になっているか確認してはいかがでしょうか。

Takashi MATSUO

野鳥ウォッチング ⑭ ルリビタキ(オス)

ルリビタキは、スズメより少し小さく、比較的標高の高い所に生息しています。
頭から首、背中にかけて青色で、脇がオレンジ色の美しい小鳥です。荒れ茂った藪の中を飛び回ります。「ヒュロ、ヒュロ、チョロロロ…」と流れるようにさえずります。



矢部村 栗原 浩暢